

埋蔵文化財試掘調査報告 V

国道バイパス・県道建設予定地及び県営ほ場整備事業予定地内の調査

1992年3月

香川県教育委員会

例　　言

1. 本書は、香川県教育委員会が平成3年度国庫補助事業として実施した、遺跡詳細分布調査の概要報告書である。
2. 平成3年度の遺跡詳細分布調査の対象は、国道11号高松東道路（三木町～津田町）建設予定地、県道高松長尾大内線（三木町～寒川町）道路改良事業予定地、および県営ほ場整備事業予定地内の三豊郡高瀬地区、香川郡香南地区、木田郡田中地区・東田中地区、大川郡大川地区である。
3. 調査は香川県教育委員会事務局文化行政課主任技師岩橋 孝、北山健一郎が担当した。
4. 本書の執筆は調査の分担に応じて以下の分担で行い、全体編集は岩橋が担当した。

第2章、第3章、第4章(3)3	北山
第1章、第4章(1)、(2)、(3)1、2、4	岩橋
5. 本書の挿図の一部に建設省国土地理院発行の25,000分の1の地形図を使用した。
6. 調査の実施にあたっては、建設省香川工事事務所、香川県土木部道路建設課、長尾土木事務所、香川県農林部土地改良課、三豊土地改良事務所、中部土地改良事務所、大川土地改良事務所、高瀬町教育委員会、香南町教育委員会、三木町教育委員会、長尾町教育委員会、寒川町教育委員会、大川町教育委員会、その他地元関係各位、および（財）香川県埋蔵文化財調査センターの協力を得た。

目 次

第 1 章 平成 3 年度遺跡詳細分布調査実施に至る経緯	1
第 2 章 国道バイパス建設予定地内の調査	2
(1) 調査に至る経緯と経過	2
(2) 調査の方法	
(3) 調査の概要	4
1 高松東道路（津田インターチェンジ）	4
2 高松東道路（志度インターチェンジ・志度末地区）	8
第 3 章 県道建設予定地内の調査	15
(1) 調査に至る経緯と経過	15
(2) 調査の方法	15
(3) 調査の概要	16
1 県道高松長尾大内線	16
第 4 章 県営ほ場整備事業予定地内の調査	28
(1) 調査に至る経緯と経過	28
(2) 調査の方法	28
(3) 調査の概要	30
1 高瀬地区	30
2 香南地区	37
3 田中・東田中地区	43
4 大川地区	49

図 目 次

図1 国道バイパス調査対象地位置図	3	図12 県営は場整備調査対象地位置図	29
高松東道路（津田インターチェンジ）		高瀬地区	
図2 調査対象と周辺の遺跡分布図	5	図13 調査対象地と周辺の遺跡分布図	31
図3 調査トレンチ配置図	6	図14 調査トレンチ配置・遺跡範囲図	32
高松東道路（志度インターチェンジ・志度町木地区）		図15 遺跡範囲図	33・34
図4 調査対象地と周辺の遺跡分布図	9	香南地区	
図5 調査トレンチ配置図(1)	10	図16 調査対象地と周辺の遺跡分布図	38
図6 調査トレンチ配置図(2)	11	図17 調査トレンチ配置・遺跡範囲図	39
県道高松長尾大内線		田中・東田中地区	
図7 調査対象地と周辺の遺跡分布図	19	図18 調査対象地と周辺の遺跡分布図	44
図8 調査トレンチ配置図(1)	20	図19 調査トレンチ配置図（田中地区）	45
図9 調査トレンチ配置図(2)	21	図20 調査トレンチ配置図（東田中地区）	46
図10 調査トレンチ配置図(3)	22	大川地区	
図11 調査トレンチ配置図(4)	23	図21 調査対象地と周辺の遺跡分布図	50
		図22 調査トレンチ配置・遺跡範囲図	51

表 目 次

表1 遺跡詳細分布調査の概要（各年度）	1
表2 国道バイパス調査対象事業と調査の経過・概要	2
表3 県営は場整備調査対象事業と調査の経過・概要	29

写真目次

高松東道路（津田インターチェンジ）

- 写真1 北部尾根上のテストピット 7
写真2 東南部尾根上のテストピット
写真3 調査地遠景

高松東道路（志度インターチェンジ・志度町 末地区）

- 写真4 調査地遠景 12
写真5 調査風景
写真6 木3号窯跡窯体検出状況
写真7 トレンチ①掘削状況 13
写真8 トレンチ④掘削状況
写真9 トレンチ⑥掘削状況
写真10 末地区山上部トレンチ①掘削状況
..... 14
写真11 末地区トレンチ⑩掘削状況
写真12 末地区調査風景

県道高松長尾大内線

- 写真13 トレンチ⑨調査風景 24
写真14 トレンチ⑪土層断面
写真15 トレンチ⑫調査風景
写真16 トレンチ⑭土層断面 25
写真17 トレンチ⑮掘削状況
写真18 トレンチ⑯ピット群検出状況
写真19 トレンチ⑬遺構検出状況 26
写真20 トレンチ⑯埋戻風景
写真21 極楽寺東古墳現況
写真22 トレンチ⑯極楽寺東古墳周濠
検出状況 27
写真23 同遺物出土状況
写真24 トレンチ⑰掘削状況

高瀬地区

- 写真25 調査対象地遠景 35
写真26 トレンチ①西方の遺構検出状態
写真27 トレンチ③発掘作業風景
写真28 トレンチ⑩・土壤基検出状態 36
写真29 トレンチ⑩土壤基出土遺物
写真30 トレンチ⑪出土遺物

香南地区

- 写真31 トレンチ掘削前の状況 40
写真32 トレンチ①・②掘削状態
写真33 水路付近の状況
写真34 トレンチ⑤掘削作業風景 41
写真35 トレンチ⑤全景
写真36 トレンチ⑤検出窯体細部
写真37 水路際出土遺物 42
写真38 トレンチ⑤窯体検出中出土遺物
写真39 トレンチ⑤窯体内出土遺物

田中・東田中地区

- 写真40 トレンチ③掘削状況 47
写真41 トレンチ④土層断面
写真42 トレンチ⑤掘削状況
写真43 調査風景 48
写真44 トレンチ④掘削状況
写真45 トレンチ③上層断面

大川地区

- 写真46 調査対象地遠景 52
写真47 トレンチ②発掘作業風景
写真48 トレンチ⑤全景
写真49 トレンチ⑤東部遺構検出状態 53
写真50 トレンチ⑥北端遺構検出状態
写真51 トレンチ⑦全景
写真52 トレンチ①設定は地探集遺物 54
写真53 トレンチ①・⑥出土遺物
写真54 トレンチ⑦溝出土遺物

第1章 平成3年度遺跡詳細分布調査実施に至る経緯

香川県教育委員会は、国民共有の貴重な文化財である埋蔵文化財の適正な保護を図るために、昭和58年度以来、過去6回にわたり国庫補助事業として遺跡詳細分布調査を実施してきたが、その経過、概要は以下のとおりである。

昭和50年代後半以降、香川県では所謂三大プロジェクト（瀬戸大橋・四国横断自動車道・新高松空港）をはじめ大規模公共開発事業が具体化するに伴い、埋蔵文化財の適正な保護が緊急の課題となつた。これに対処するため香川県教育委員会は昭和58年度から4箇年計画で県下の遺跡詳細分布調査を企画し、第1年次目の調査では多大な成果をあげたが、県下の高速道路網整備の急速な進展により計画は中断を余儀なくされ、昭和61年度から緊急を要するこれらの大規模公共開発事業に対応するものとして遺跡詳細分布調査を実施することとなった。さらに昭和63年度からは県道建設事業、県営は場整備事業を新たに調査対象に加え、埋蔵文化財の保護に努めてきた。

平成3年度は、昭和63年度以降の調査を踏襲し、緊急を要する高松東道路（三木町～津田町）建設予定地、平成5年の東四国国体開催にあわせて整備が進む県道高松長尾大内線建設予定地、および県営は場整備事業予定地（高瀬・香南・田中・東田中・大川）を調査対象とした。

実施年度	調査対象地	調査方法	調査の目的	報告書の名称
58年度	中讃4市9町	分布調査	遺跡台帳の整備	昭和58年度埋蔵文化財詳細分布調査報告
61年度	A 国道32号讃南バイパス B 国道11号高松東バイパス C 国道11号板出・丸龜バイパス D 国道319号英透寺バイパス E 四国横断自動車道（高松～普通寺間）の各建設予定地	分布調査 (A～E) 城郭調査 (A・B・D)	国道バイパス、四国横断自動車道建設予定地内の埋蔵文化財有無の確認	西道バイパス及び四国横断自動車道建設予定地内埋蔵文化財詳細分布・試掘調査報告
62年度	国道11号高松東バイパス（高松市林町～六条町）建設予定地内	試掘調査	高松東バイパス建設予定地内の遺跡範囲の確認	一般国道11号高松東バイパス建設予定地内埋蔵文化財試掘調査報告
63年度	A 国道11号高松東バイパス（高松市東山崎町・前田東町）建設予定地内 B 岩連高松長尾大内線（高松市小村町）建設予定地内 C 岩連は場整備事業予定地内（大川・鴨部・三野東部・豊島・高瀬）	分布調査 試掘調査	A 高松東バイパス建設予定地内の遺跡範囲の確定 B・C 遺跡台帳の整備	一般国道11号高松東バイパス建設及び岩連は場整備に伴う埋蔵文化財試掘調査報告II
元年度	A 国道11号高松東道路（高松市前田西町の一部）建設予定地内 B 国道11号高松東道路（高松市溝町・西条福家地区）建設予定地内 C 岩連は場整備事業予定地内（高瀬・三野東部・香南・鴨部・大川）	分布調査 試掘調査	A 高松東道路建設予定地内の遺跡範囲の確定 B・C 開発予定地内の埋蔵文化財有無等の確認及び遺跡台帳の整備	埋蔵文化財試掘調査報告III 国道バイパス建設予定地及び岩連は場整備事業予定地内の調査
2年度	A 国道11号高松東道路（高松市前田西町の一部）建設予定地内 B 国道11号高松東道路（三木町～津田町）建設予定地内 C 国道32号讃岐バイパス（溝町・羽根・青野下・五条地C）建設予定地内 D 旗峰山崎御坂線建設予定地内 E 岩連は場整備事業予定地内（高瀬・三野西部・大川・大内）	分布調査 試掘調査	A 高松東道路建設予定地内の遺跡範囲の確定 B・C 開発予定地内の埋蔵文化財有無等の確認及び遺跡台帳の整備	埋蔵文化財試掘調査報告IV 国道バイパス・然道建設予定地及び岩連は場整備事業予定地内の調査

表1 遺跡詳細分布調査の概要（各年度）

第2章 国道バイパス建設予定地内の調査

(1) 調査に至る経緯と経過

国道バイパス建設に伴う埋蔵文化財の保護については、これまで香川県教育委員会と建設省香川工事事務所との間で適宜協議を行い、その適切な保護に努めてきた。

高松平野のほぼ中央を東西に貫通する予定の高松東道路（高松市上天神町～同前田東町間）建設予定地のうち、高松市太田第2土地地区画整理事業予定地を除く、延長約6.2km、7区間については、昭和61年度以降「遺跡詳細分布調査」等により、各区間単位に順次分布・試掘調査を実施し、建設予定地内の埋蔵文化財包蔵地の有無確認および遺跡範囲の確定を行い、若干の事前の発掘調査を残すのみとなっている。

また、東讃地方の主要幹線道路としてその整備が急がれている高松東道路（木田郡三木町～大川郡津田町間）については、昭和63年11月1日付建四香第1461号で照会文書が提出されている。これを受け、県教育委員会では、平成元年度に一次調査として現地踏査等を行い、平成2年度には全区間の延長約16.5km、面積約495,000m²を対象に分布調査を行い、試掘調査が必要な場所の抽出を行なった。また、部分的に用地交渉の妥結した場所については、試掘調査も実施し、その結果、大川郡志度町鴨部地区において弥生時代前期の大規模な集落跡を発見し、事前の発掘調査を実施している。

平成3年度は、用地交渉の妥結した大川郡志度町末の（仮称）志度インターチェンジ建設予定地とその隣接地および志度町と津田町の境に位置する（仮称）津田インターチェンジ建設予定地の3箇所、面積約112,000m²を対象に試掘調査を行なった。

調査地区名	試掘調査			確認した遺跡の概要			
	期間	面積	遺跡名	種別	時代	保存措置等	
1 高松東道路（津田インターチェンジ）	6月24日～6月26日	12.5m ²	—	—	—	—	
2 高松東道路（志度インターチェンジ）	7月15日～7月19日	440.0m ²	末3号窓跡 窓跡	古墳	3,939m ² 記録保存		
3 高松東道路（志度町末）	12月16日～12月20日	450.0m ²	—	—	—	—	

表2 国道バイパス調査対象事業と調査の経過・概要

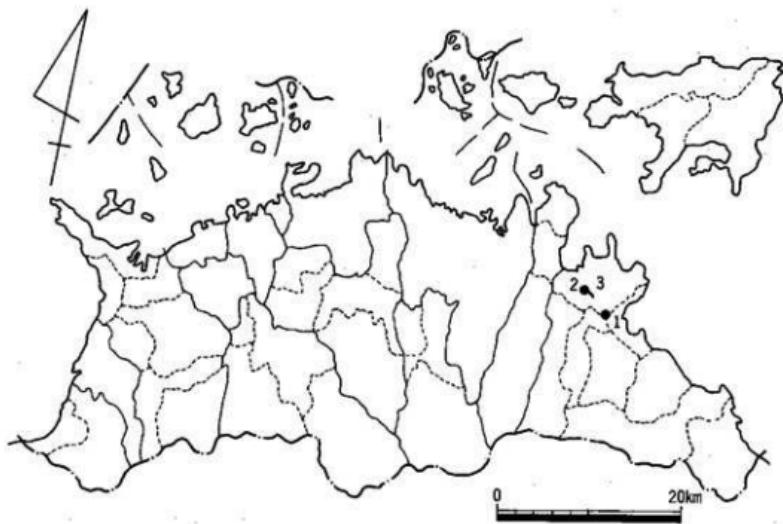


図1 国道バイパス調査対象地位置図

(2) 調査の方法

事前に道路建設予定地内の現地踏査を実施し、遺物の表面採集、地形観察等により、試掘調査の必要の有無確認および試掘場所の選定を行い、あわせて水路や公・私道の現状や重機の進入経路を確認した。

試掘調査はトレンチ調査で、以下の方法を原則とした。

試掘トレンチは調査対象の範囲および地形、地割等を勘案して設定した。道路建設予定地内の試掘調査の場合、建設用地の両側近くにそれぞれトレンチを設定するのが有効であり、通例であるが、今年度は、分布調査の結果等により、建設用地内に千鳥に、地割にあわせてトレンチを設定した。トレンチの規模は幅約2mである。

トレンチの掘削は重機により各土層ごとに掘削し、遺構等の発見される地面で一時停止して、その後は人力による掘削面の清掃を行なった。遺構等の検出後は土層柱状図、遺構配置略図を作成し、写真撮影を行なった。調査記録作成後、必要に応じてさらに深く掘削して土層の堆積状況を観察・記録し、調査終了後旧状に埋め戻した。

(3) 調査の概要

1 高松東道路（津田インターチェンジ）

位置と環境

調査対象地は、大川郡志度町、津田町および寒川町の3町の境に位置する（仮称）津田インターチェンジ建設予定地のうち、平成元年度の分布調査により、試掘調査が必要であるとされた天神上池の南東の尾根の頂部、北側の尾根の頂部、南側の尾根の頂部、西南側の尾根の頂部の4箇所（面積約750m²）であり、標高35m～40mを測る。

当該地の西側約500mには、平成元年度の試掘調査で発見された弥生時代前期～古代にかけて大規模な集落跡である鴨部川田遺跡があり、事前の発掘調査により自然河川から多量の木製農耕具が出土している。これらの木器は分析の結果、様々な製作工程のものが存在し、同遺跡は木製農耕具の工房跡であると推定されている。

また、当該地の北東約1kmには、弥生時代後期～古墳時代にかけての集落跡である鴨部南谷遺跡があり、竪穴住居跡やたくさんの良好な土器が出土している。

当該地の東約1.5kmには、京都府椿井大塚山古墳出土の三角縁神獣鏡（21号鏡）と同范の三角縁神獣鏡を出土している奥3号墳をはじめとする弥生時代後期末から古墳時代後期にかけての雨滝山遺跡群がある。また、鴨部川田遺跡の南側の寺尾山山麓には古墳時代後期の寺尾古墳群（19基）があり、提瓶・高杯等の出土が知られている。

古代～中世の遺跡としては、南約1kmに奈良時代の寺院跡である石井庵寺があり、塔心礎が残存している他、蓮華文軒丸瓦等が出土している。また、前述の雨滝山山頂部には中世にこの地を支配していた寒川氏の居城であった雨滝城跡がある。

調査結果

調査対象地は、尾根の頂部であり、墳墓等の遺構が予想された。

当該地は、下草や灌木が生い茂っており、他者を寄せ付けない状況であったため、重機は使えず、1m×1mのテストピットを人力で掘削した。その他の部分については、尾根上を中心として約1m間隔でボーリング棒による遺構等の探査に努めた。その結果、いずれの場所においても表土下約20～30cmで花崗岩の軟岩盤に到達し、墳墓等の遺構、遺物は検出されなかった。

まとめ

調査結果から見て、当該地に墳墓等の遺跡の所在する可能性は少ないものと思われ、したがつて、事前の保護措置は不要であると判断される。



- | | | |
|-----------------|-----------|-------------|
| 1 鶴部川田遺跡 | 9 中峰古墳 | 17 舟井古墳群 |
| 2 西山古墳群（3基） | 10 宮廻古墳 | 18 石井廃寺 |
| 3 坂子古墳群（2基） | 11 審玉山古墳 | 19 吉金窯跡 |
| 4 寺尾古墳群（19基） | 12 岩崎山古墳群 | 20 吉金古墳群 |
| 5 田中古墳群 | 13 野牛古墳 | 21 平砂古墳群 |
| 6 鶴部南谷遺跡（弥生、集落） | 14 泉聖天古墳 | 22 大井七ツ塚古墳群 |
| 7 日浦古墳群 | 15 雨海城跡 | 23 古枝古墳 |
| 8 北羽立峰古墳 | 16 雨浦山遺跡群 | 24 古枝遺跡 |
| | | 25 雨浦山麓遺跡 |

図2 調査対象地と周辺の遺跡分布図

図3 調査トレンチ配置図（アミ部分が調査対象地）

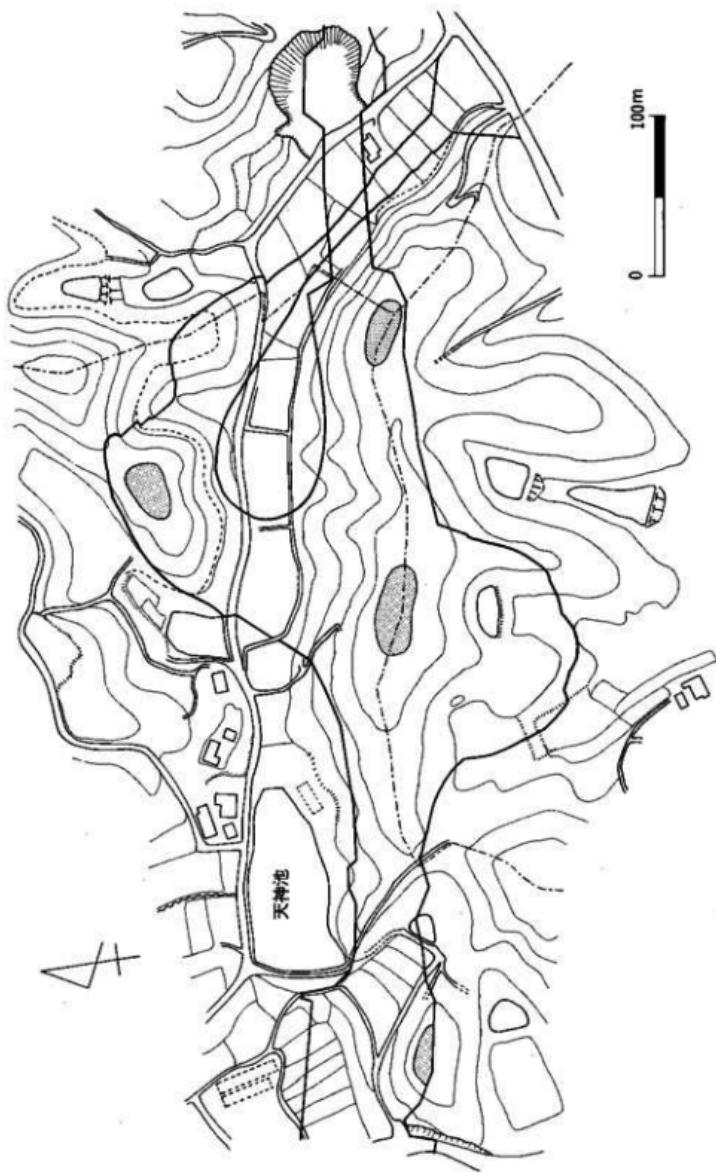


写真1 北部尾根上の
テストピット



写真2 東南部尾根上の
テストピット



写真3 調査地遠景



2 高松東道路（志度インターチェンジ・志度末地区）

位置と環境

調査対象地のある志度町末は、東を五瀬山とその南に連なる熊高山、西を石鎚山とその北に連なる山麓地に挟まれ、南に開いた盆地状を呈している。当該地は、この盆地状の地形の北端部になり、五瀬山の東西麓、南へ伸びた低丘陵の尾根の南端から、東へ入ったところであり、尾根間の谷には多くの溜め池が築かれている。

地名の「末」が示すとおり、付近には須恵器窯の所在が知られている。まず、当該地の南東約550mのところに志度末1号窯がある。この窯は、出土遺物から6世紀後半から7世紀代にかけて操業されたものと推測されている。次に当該地の西南西約350mの団地の南西の一角に志度末2号窯がある。出土遺物から見て7世紀代の窯跡であると思われる。また、調査対象地内の南西部の溜め池西斜面に須恵器片、窯体片の分布が知られており、窯本体は未検出だが志度末3号窯跡と称されている。

その他に志度末2号窯跡周辺に西山古墳や、志度末1号窯跡の東側に中世～近世の塚が点在している。

(1) 志度インターチェンジ

調査結果

調査は志度末3号窯跡の本体の有無ならびにその関連遺構の検出、その他の遺構・遺物の分布の確認を目的として行なった。

その結果、溜め池西側の斜面は農道を造成した際に2段に削平されていたが、上段の崖面を重機で削るとトレンチのほぼ中央部に窯体が検出された。検出された窯体は幅約1.5m、削平の際にかなり破壊されており、長さ約2mほどしか残存していなかった。農道より下の斜面に灰原の検出を目的としてトレンチを設定したが、窯体の下部で幅約11mくらいの灰色土の堆積が見られたが、遺物等は出土しなかった。

この溜め池の東側の尾根以東の部分では、5本のトレンチを設定したが、もともとの尾根状の地形を改變して耕作地にした痕跡が見られ、遺構・遺物とともに検出されなかった。

まとめ

調査結果より、溜め池西側の斜面に須恵器窯跡1基（志度末3号窯跡）が所在することが確認された。また、溜め池東側については調査の結果、緩やかな丘陵を削り、耕作地を造成していることが判明した。

よって、当該地については、適切な保護措置が必要であると判断される。

(2) 志度末地区

調査結果

尾根の頂部に墳墓等の検出を目的としたトレンチを設定したが、それらしい遺構・遺物とともに

検出されなかった。東側の谷状地形に設定したトレーンチでは、谷筋からの堆積層である黄色粗砂層が広範囲に認められ、当該地が非常に不安定な土地であったことが確認された。

まとめ

以上の調査結果および周辺の地形等を考え合わせると、当該地に埋蔵文化財包蔵地の所在する可能性は低く、よって、事前の保護措置は不要であると判断される。



- | | |
|-------------|--------------|
| 1 東3号窯跡 | 6 六番古墳群(2基) |
| 2 東2号窯跡 | 7 熊高山1号墳 |
| 3 西末古墳 | 8 同2号墳 |
| 4 東1号窯跡 | 9 同3号墳 |
| 5 西山古墳群(3基) | 10 日内山古墳(円墳) |

図4 調査対象地と周辺の遺跡分布図

図5 調査トレーンチ配置図

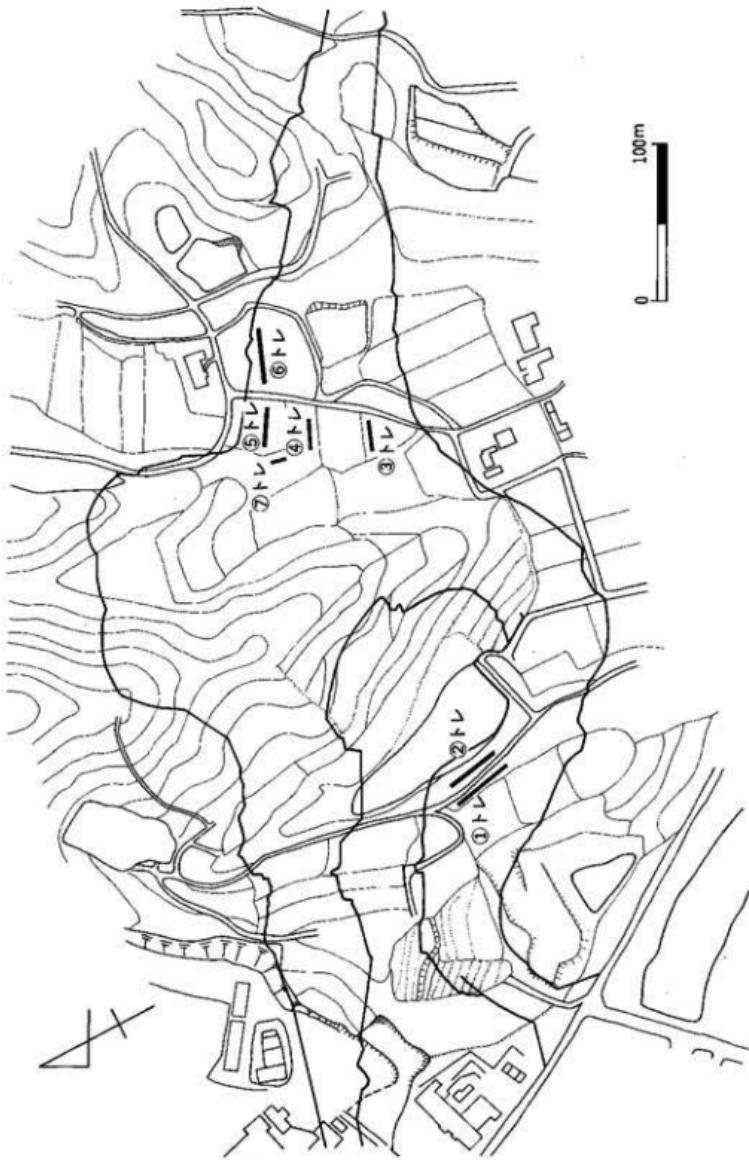




図6 調査トレーンチ配置図

写真4 調査地遠景



写真5 調査風景



写真6 末3号窯跡
窯体検出状況

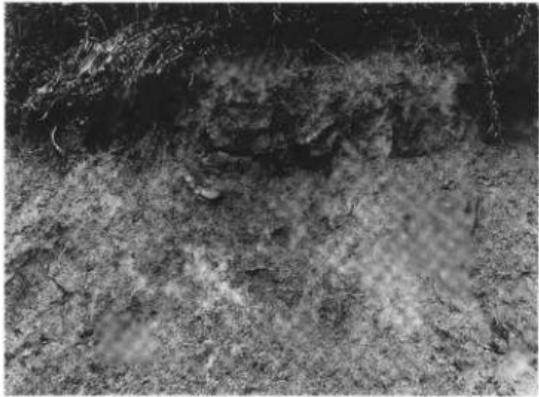


写真7 トレンチ②掘削状況



写真8 トレンチ④掘削状況



写真9 トレンチ⑥掘削状況

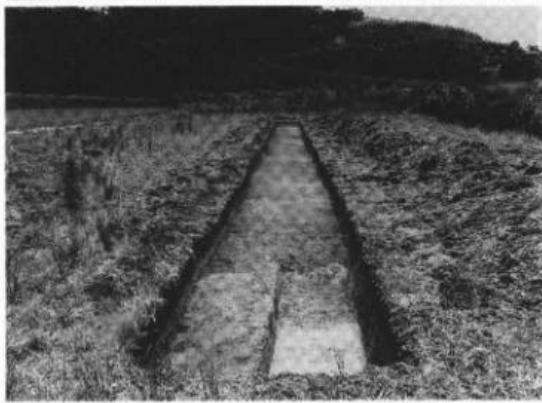


写真10 末地区山上部
トレンチ①掘削状況



写真11 末地区トレンチ⑫
掘削状況



写真12 末地区調査風景



第3章 県道建設予定地内の調査

(1) 調査に至る経緯と経過

主要地方道高松長尾大内線（県道10号線）は、高松市から木田郡三木町・大川郡長尾町・寒川町・大川町を経て大内町で国道11号線に合流する全長約28kmの東讃地域の主要幹線道路である。しかし、近年の産業・経済の発展ならびに沿線における住宅宅地開発の急速な進展にともない、交通量の増加は著しく、各所で交通渋滞が発生している。このため、土木部道路建設課（当時は道路課）は、本路線のバイパス（約22km）を現道の約500m南に建設することにし、昭和48年度より寒川工区、昭和54年度より高松工区、昭和55年度より長尾工区および大川西工区、昭和63年度より三木工区の工事を順次進め、現在まで寒川工区全区間（約2.6km）をはじめとして高松工区（約2.2km）、長尾工区（約0.8km）、大川西工区（約2.2km）の計約7.8kmの区間で供用を開始している。

また、平成5年度に本県において東四国国体が開催されるに伴い、新たな人的・物的輸送路の確保が急務となり、本バイパスがそれに充てられることとなった。このため、残りの区間の埋蔵文化財包蔵地の所在状況を早急に確認する必要が生じてきた。文化行政課は道路建設課と協議を重ね、平成3年度中に残りの部分の埋蔵文化財包蔵地の所在状況を確認することで合意に達した。

そして、平成3年6月20日に分布調査を行い、地形観察等により、試掘調査が必要な場所を選定し、合わせて買収状況・試掘調査時期・重機の進入路等の確認を行なった。その結果、木田郡三木町・大川郡長尾町・寒川町の延長約4kmについて試掘調査を実施し、特に調査対象地の最も西側については、工事発注との関係で先行して試掘調査を実施することとし、残りの部分については、秋の収穫時期以降、用地交渉の妥結した部分について試掘調査を実施することとした。

結果的に第1次調査は平成3年7月22日・23日、第2次調査は平成3年10月21日から12月3日（実働19日間）の期間で実施した。

(2) 調査方法

調査対象地は、町道正一鍛冶線以東の延長約5km、幅約20mである。途中木田郡三木町中井戸から大川郡長尾町名までの約0.8kmは既に供用を開始しているので、調査対象面積は約80,000m²である。

試掘調査では、事前の分布調査で確認した地形・地割および水路や公・私道の現状等を勘案してトレンチを設定した。トレンチは、総延長が非常に長く、また、用地交渉の妥結していない部分もあったので、不規則な設定になっているが、各トレンチ間の距離は概ね50m以内になるよう

に設定した。トレンチ数は46、総延長約940mで実掘面積は1,873m²である。

調査トレンチは重機により各土層ごとに掘削し、その後人力により精査し、遺構等の検出を行なった。遺構等の検出後はそれらの配置略図、土層柱状図を作成するとともに、写真撮影を行なった。

また、一部の遺構等については、その内容・遺存状態・時代等を把握するため掘削した。これらの作業終了後、さらに掘り下げ、遺構等の有無の確認を行なった。すべての調査終了後、調査トレンチは凹状に埋め戻した。

(3) 調査の概要

県道高松長尾大内線

位置と環境

調査対象地は大別して、三木地区ならびに長尾地区に分けられる。三木地区は、新川と鴨部川に挟まれた標高約30m～37mを測り、南東から北西に向かって緩やかに傾斜している。北側約1kmには、白山銅鐸（兵庫県辰馬考古資料館蔵）出土で有名な白山があり、その山麓には、天神山古墳群や鳥打大西谷古墳・鳥打古墳・狸地藏南丘古墳等が所在する。白山北側の山麓には、小倉東丘頂古墳や縁ヶ丘古墳・前方後円墳である中代中墳が所在する。

三木地区と長尾地区の間には、平成元年度に事前の発掘調査を実施し、古墳時代後期から終末期にかけての集落跡である下屋遺跡や同遺跡のすぐ北側に若宮古墳等が所在する。また、下屋遺跡の南東には、やはり古墳時代の集落跡である市畠遺跡や辛立遺跡等が所在する。

長尾地区には、南北朝時代にこの地に創建されたと伝えられる極楽寺のそばに極楽寺西古墳・同東古墳が所在する。また、南約1kmには県内でも屈指の規模を誇る群集墳である亀島古墳群や間島庵古墳・土釜古墳等が所在する。

極楽寺より北側約500mのところには、弥生時代の散布地である清水遺跡、さらに500m北側には三反地遺跡等が所在する。

また、王田池の北側約2kmの天王山およびその山麓には、将基山古墳や橋方古墳・天王山古墳、天王山弥生遺跡等が所在する。

調査結果

(1) 三木地区（トレンチ番号1～22）

三木地区は、東西約2,000mで東端部分と西端部分との比高差は約5.8mである。基本的な層序は、耕作土の下部約50cmのところに大規模な氾濫原が確認できる。この氾濫原は、厚いところでは約2mにも達し、全体的に湧水が激しく壁面が崩壊したトレンチが多くあった。氾濫原の下部には青灰色粘土および灰白色粘土の地山が確認できる。

7トレンチで確認された暗黄褐色粘土の地山は東西約30mほど広がるもので大規模な氾濫原の

堆積しなかったところであるが、遺構は確認されず、遺跡は南側やや標高の高い部分に所在するものと考えられる。

氾濫原上層に堆積している黒褐色砂質土からは、弥生土器・石器等が出土しているが、ほとんどが磨滅を受けており、南側からの流れ込みによるものと考えられる。

(2) 長尾地区（トレンチ番号23～45）

長尾地区は東西約2,100mにわたるが、尾根および谷状地形が繰り返し現れる非常に起状に富んだ地形を呈している。特に極楽寺周辺では、田と田の比高差が2～3mもある部分が見られ、調査は困難を極めた。

25トレンチの西側には、氾濫原の所在が確認されたが、氾濫原の上層に堆積している黒色粘質土より遺存状態の良好な遺物が多量に出土しており、付近に埋蔵文化財包蔵地の所在することを示唆している。また、25トレンチにおいては包含層下層に安定した黄白色粘土の地山が確認され、東へ安定した土地が続くことが予想される。

また、清水川東岸において氾濫原上面で中世のものとみられる溝等を検出している。極楽寺周辺の尾根は後世の開墾により削平を受けており、遺存状況はよくなかったが、中世のピットや土坑を検出している。また、極楽寺の旧参道と思われる道の隣接地で中世の溝、ピット等を検出している。

極楽寺の北30mにある極楽寺東古墳のそばで同古墳のものと思われる周濠と思われる溝を検出した。後世の削平を受けており、深さ15cmほどしか残っていなかったが、6世紀後半の有蓋高杯が出土している。

極楽寺以東においては、町道是行谷線から切ノ川までの間のトレンチで厚い氾濫原を確認しており、遺跡の所在する可能性は少ないものと思われる。

切ノ川から44トレンチまでの間は溜め池と尾根が続き、尾根は後世の削平を受けており、遺構・遺物は確認し得なかった。

調査対象地の最も東側の45・46トレンチでは、当初、厚い氾濫原の所在が予想されたが、西側に黄白色粘土の地山が広がり、溝2条が検出されたが、埋土の状況、遺物が出土しないことなどからみて旧流路であると考えられる。

まとめ

調査結果および周辺の地形等からみて、三木地区には河川の氾濫原と思われる黄色粗砂層が厚く堆積しており、遺跡の所在する可能性は少ないと考えられる。

長尾地区については、遺構・遺物の出土状況や周辺の地形等からみて24トレンチから伝西寺南側の落ちまでの間、清水川西岸の尾根上の部分、清水川東岸より極楽寺東古墳南側までの間（約11,000m²）において適切な保護措置を執る必要があると考えられる。

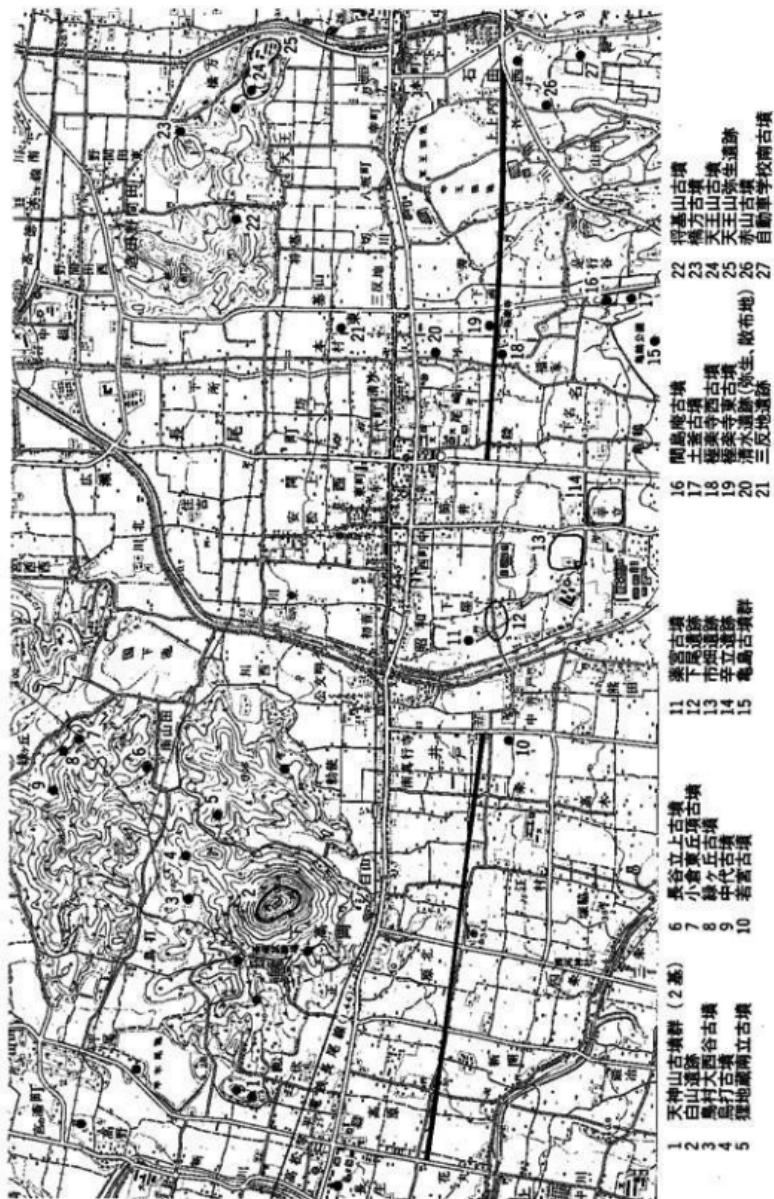
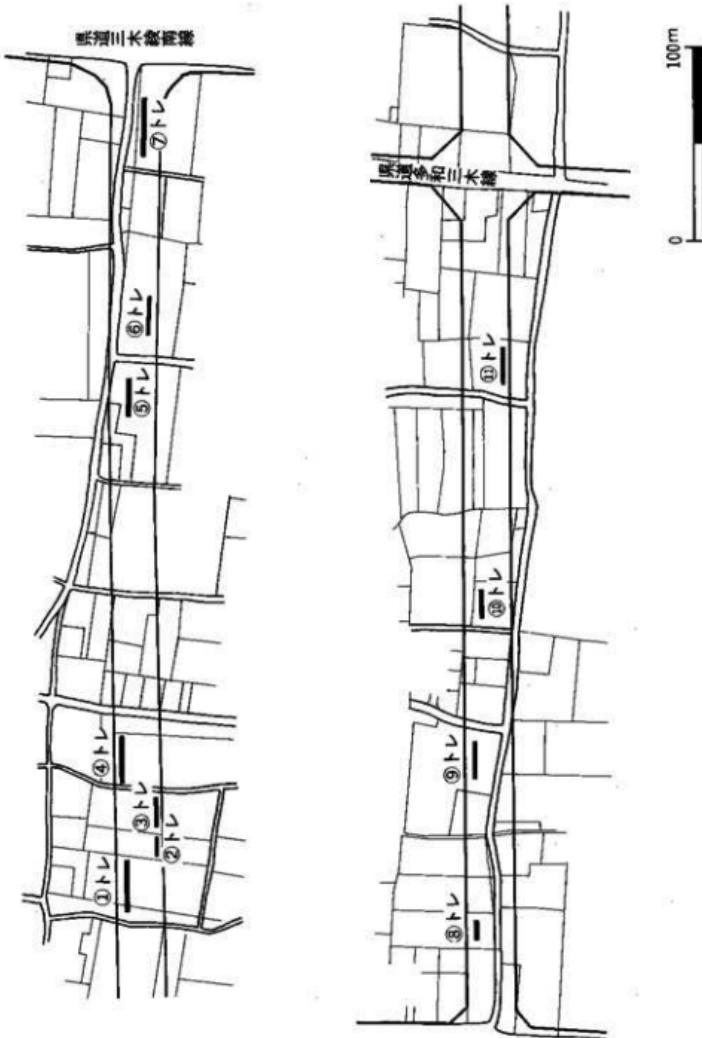


図7 調査対象地と周辺の遺跡分布図

図8 調査トレンドチ配図(1)



100m

図9 検査トレンチ配置図(2)

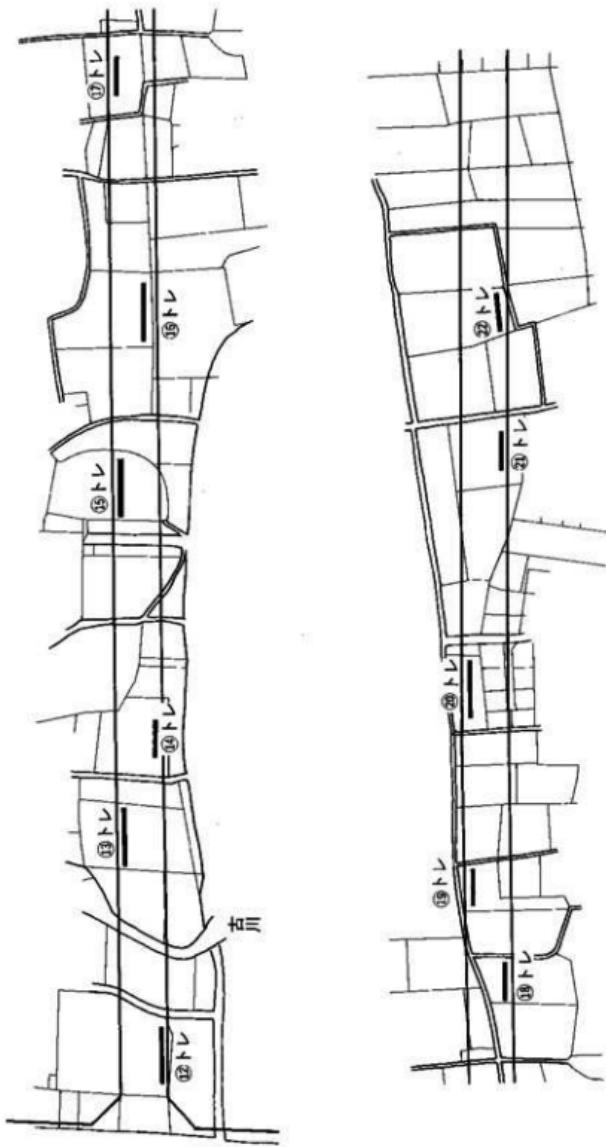
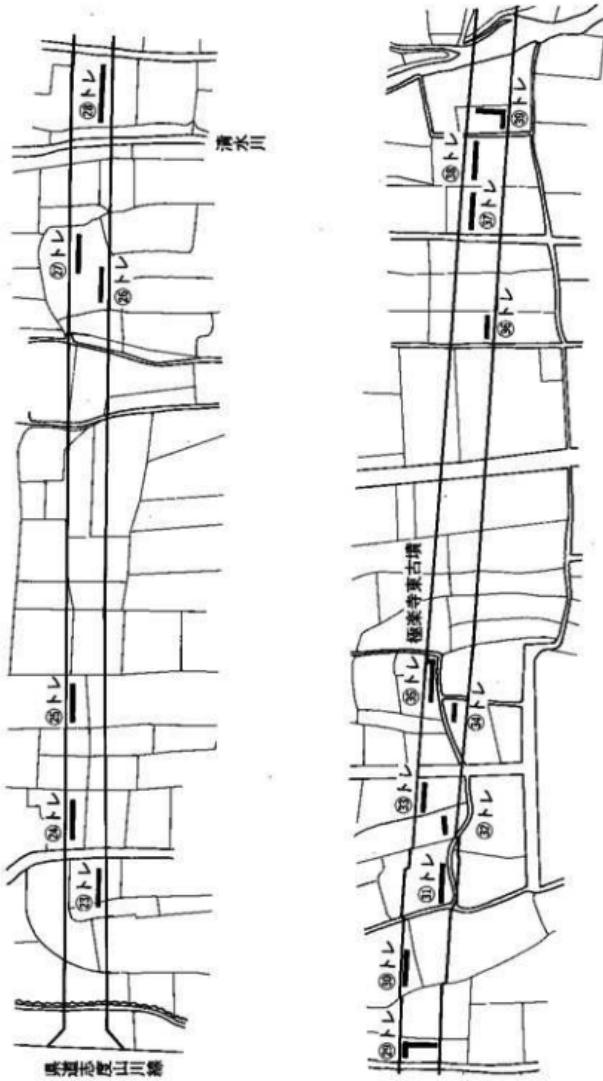


図10 調査トレンチ記述図(3)



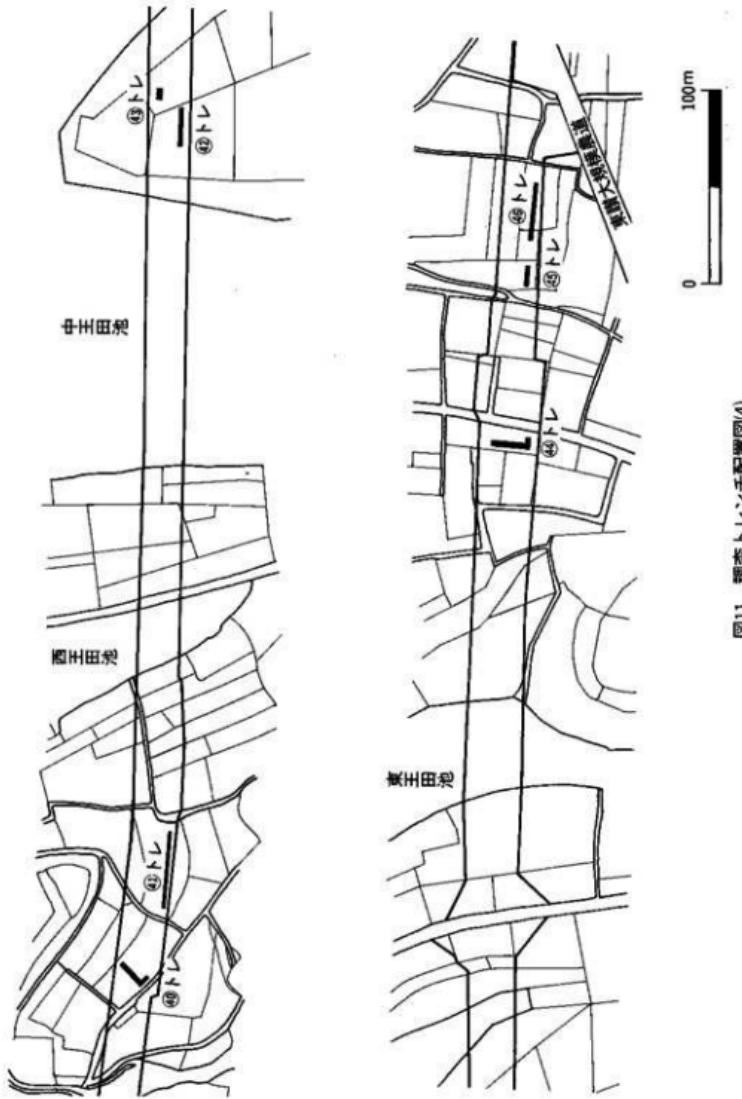


図11 調査トレンチ配置図(4)

写真13 トレンチ⑨調査風景



写真14 トレンチ⑪土層断面

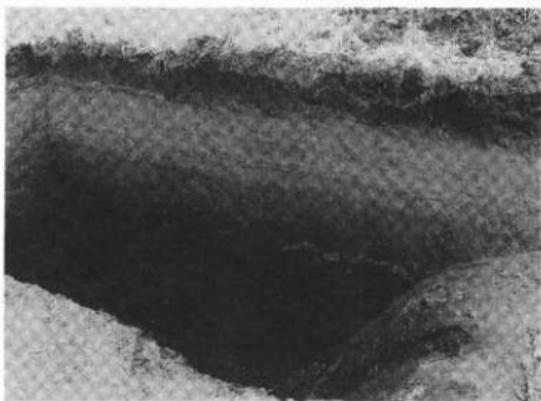


写真15 トレンチ⑭調査風景



写真16 トレンチ②土層断面



写真17 トレンチ②掘削状況



写真18 トレンチ②ピット群
検出状況



写真19 トレンチ⑩
遺構検出状況



写真20 トレンチ⑩埋戻風景



写真21



写真22 トレンチ⑤
極楽寺東古墳周濠



写真23 同遺物出土状況

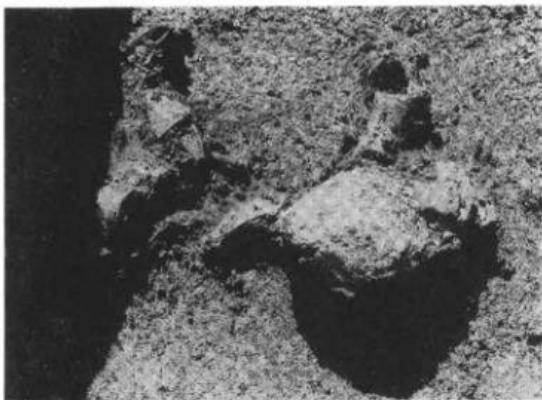
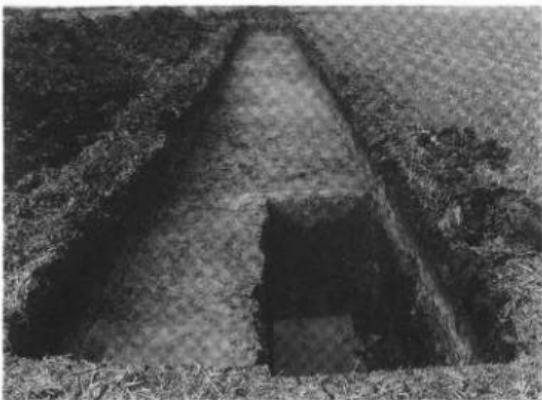


写真24 トレンチ⑦掘削状況



第4章 県ほ場整備事業予定地内の調査

(1) 調査に至る経緯と経過

昭和58年度に香川県のほぼ中部域の4市9町を対象に実施した遺跡詳細分布調査では、従来確認していた遺跡数に比べ約4割増の遺跡が新たに発見され、また、四国横断自動車道や国道バイパス等の建設に伴う発掘調査でも平野部を中心に新たな遺跡が発見が相次いだ。これらのことを見ると、今後の香川県下での諸開発に適格に対応し、埋蔵文化財の適切な保護を推進するためには、従来香川県では不充分であった平野部の遺跡の所在を把握することは緊急を要する。

そこで香川県教育委員会は、昭和63年度から、概ね低丘陵・山麓部から平野部にかけて広範囲に事業を実施する県営ほ場整備事業を遺跡詳細分布調査を対象に加え、同事業予定地内の遺跡の所在の有無およびその範囲、時代・時期、内容、性格等を確認し、遺跡台帳・遺跡地図を整備・充実するとともに、同事業実施にあたって遺跡の適切な保護を図るために資料を得ることを目的として調査に着手した。

昭和63年度は豊中・高瀬・三野東部・鴨部・大川の5地区を調査対象とし、豊中を除く4地区で試掘調査を行い、大川地区で周知の1遺跡、他地区で新たに発見した5遺跡についてその具体的な内容を把握した。

平成元年度の高瀬・三野東部・香南・田中・鴨部・大川・大内の7地区を調査対象とし、田中・大内を除く5地区で試掘調査を行い、高瀬・鴨部の2地区で新たに4遺跡の所在・内容等を確認した。

平成2年度は高瀬・三野西部・大川・大内の4地区を調査対象とし、すべての地区で試掘調査を行い、三野西部地区で周知の1遺跡、他地区で新たに4遺跡の所在・内容等を確認した。

平成3年度は高瀬・香南・田中・東田中・大川の5地区を調査対象とし、すべての地区で試掘調査を行なったが、調査の場所、経過、3概要は図12、表3のとおりである。

(2) 調査方法

分布調査は各土地改良事務所との協議の際に入手した1,000分の1の図面をもとに、遺物採集、地形観察、聞き取り等を行い、遺跡の所在が予想される範囲の確認を行なった。遺跡の所在が予想される範囲については地下構造等の所在の有無および構造面の深さ等を確認するため、事前に試掘調査を実施する必要があるので、この時にあわせて試掘調査対象地区をある程度選定した。また、試掘調査は重機による掘削を基本とするので、重機の進入、移動経路および水路や公・私道の現状等について確認した。

試掘調査対象地の選定は、分布調査結果や試掘調査実施予定期における作付、さらにはほ場整備事業の各ほ地の設計高等について検討して行なったが、結果的に切土設計となるほ地が試掘調査対象地となった。

試掘調査はトレント調査で、トレントは地割、地形にあわせて設定した。試掘トレントの規模は幅約2m長さ20mを基本としたが、必要に応じてその規模を大きくした。

試掘トレントの掘削は各土層毎に重機で行い、遺構が発見される深さで一時停止し、その後は人力により掘削面を精査し、遺構の検出に努めた。重機の掘削等による堆土については、耕作土とその他の土を分けて仮置きした。試掘トレントの掘削の深さは、ほ場整備事業実施後の耕作に留意して、ほ場整備事業の設計の切土高までとした。遺構検出後は土層状図、遺構配置略図等の作成、写真撮影を行なった。すべての調査終了後、試掘調査トレントは凹状に埋戻した。

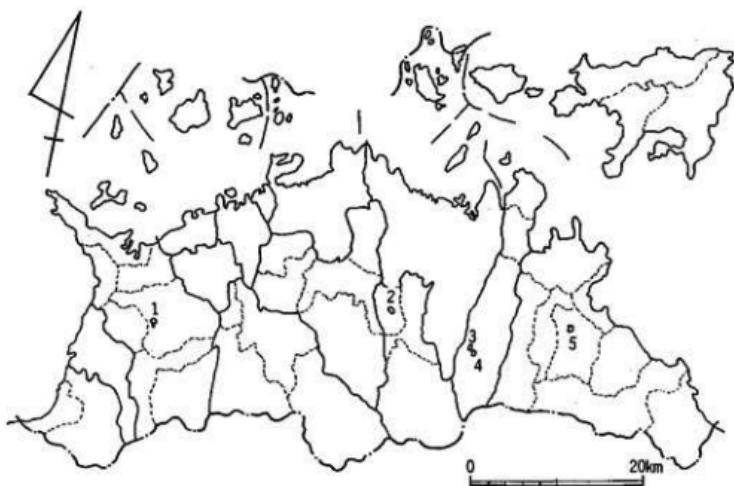


図12 県営ほ場整備調査対象地区位置図

事業区名	分布調査		試掘調査		確認した遺跡の概要				
	期間	面積	期間	面積	遺跡名	種別	時代	保存措置等	
1 高瀬	7月4日	10ha	7月23日～7月25日	690m ²	新田遺跡	集落跡	中世	12,300m ² 現状保存	
2 善南	5月21日	12.7ha	10月2日～10月5日	25m ²	茶園窯跡	窯跡	古墳	現状保存	
3 田中	7月9日	15ha	11月25日～11月27日	232.5m ²	—	—	—	—	
4 東田中	7月9日	3ha	11月28日～11月30日	110m ²	—	—	—	—	
5 大川		9.8ha	2月3日～2月6日	237m ²	千町遺跡	集落跡	古墳～古代	協議中	

表3 県営ほ場整備調査対象事業と調査の経過・概要

(3) 調査の概要

1 高瀬地区

位置と環境

平成3年度の県営は場整備事業予定地は昨年度事業の東接部にあたり、事業面積は約10haで、全域を調査対象とした。

調査対象地が位置する高瀬川中流域には平野部が広がるが、その中を北に片寄って高瀬川が北西流する。高瀬川南部は高瀬川と豊中町との境をなす眉山から派生した低丘陵と段丘が複合する地勢がみられ、昭和63年度以来の県営は場整備事業に伴う調査により、微高地上に古墳時代～中世の集落跡が展開していることが確認されている。（須ノ又遺跡、神之植遺跡、本村原遺跡）また、調査対象地の西方には南北朝時代の北朝の年号を用いた永和4年（1378）3月6日の造立銘をもつ県指定有形文化財の勝造寺層塔（通称石の塔）が所在し、高瀬勝間の地は鎌倉時代以降後深草天皇領を経て持明院統（北朝）の庄園であったところでもある。

調査結果

過年度の調査結果や分布調査結果を勘案して、今年度のは場整備事業予定地の北部域を試掘調査対象とし、幅3～3.4mのトレンチを11箇所設定した。トレンチの総延長は約217m。

基本的な土層堆積はI現耕作土、II砂質土（赤味黄色・黄灰褐色）、III黄白色粘質土（地山）である。トレンチ⑪では砂質土下から遺物を包含する明灰色砂質土がブロック状に検出された。また、トレンチ⑧・⑩では現耕作土直下が地山となる。

遺構はトレンチ①・③・④・⑦・⑩・⑪の6箇所でピット・土坑・溝・土壤墓が検出された。トレンチ①の埋甕および④・⑦のピット・溝等は層位や出土遺物から近現代のもの、一方、トレンチ①の土坑および他のトレンチの遺構等は中世以前のものと考えられる。

遺物は土師器片、須恵器片、陶磁器片、石鏃が出土し、石鏃はトレンチ⑩の現耕作地最下部からのものである。土師器片は中世の小皿、壺、壺、甕片等で、須恵器片は中世の甕片の外に古代の壺片等が出土した。

まとめ

以上の調査結果や地形等からトレンチ①を含む約1,800m²の範囲、トレンチ③を含む約5,000m²の範囲、およびトレンチ⑩・⑪を含む約5,500m²の範囲には中世以前の墓地を伴う集落跡が広がると推定される。これらの3地区の遺跡の名称は字名を探り新田遺跡とする。なお、県営は場整備事業と同遺跡の保護については、設計変更による現状保存されることになった。



- | | |
|-----------------------|--------------------|
| 1 須ノ又遺跡（集落跡、古墳後期末、中世） | 10 土井坂古墳（後期） |
| 2 神之袖遺跡（集落跡、古墳後期末） | 11 天古土器出土地 |
| 3 矢ノ岡遺跡（集落跡、古墳後、中世） | 12 古式須恵器、中世土器散布地 |
| 4 大門遺跡（集落跡、古墳後、中世） | 13 勝造寺周辺（県指定有形文化財） |
| 5 矢ノ岡古墳（箱式石槨、石訓出土） | 14 勝間城跡 |
| 6 一本松古墳（後期） | 15 山地 1・2号墳（後期） |
| 7 利生寺古墳群（後期、円墳4基） | 16 須ノ又塚（墳墓、中世） |
| 8 三背鼻古墳（後期） | 17 本木原遺跡（集落跡、中世） |
| 9 北条銅剣出土地 | |

図13 調査対象地と周辺の遺跡分布図



図14 調査トレンチ配置、遺跡範囲図

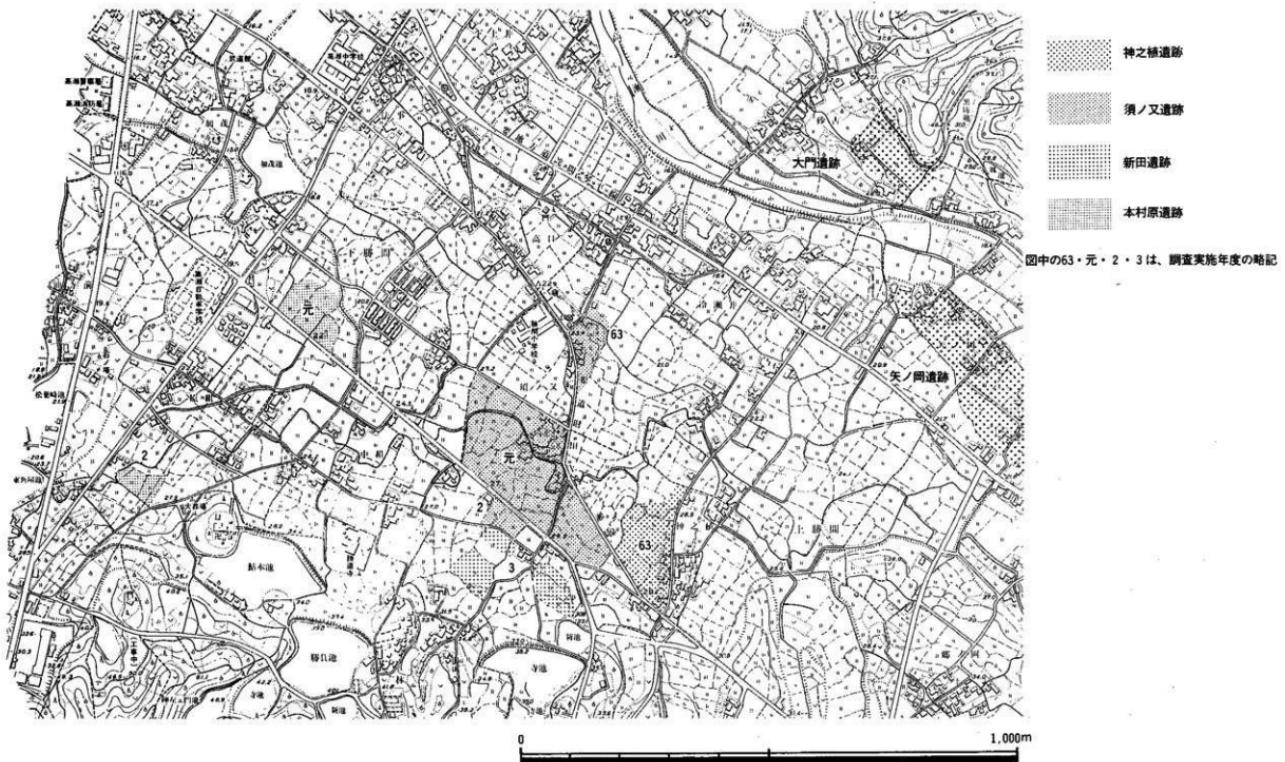


図15 遺跡範囲図

写真25 調査対象地遠景

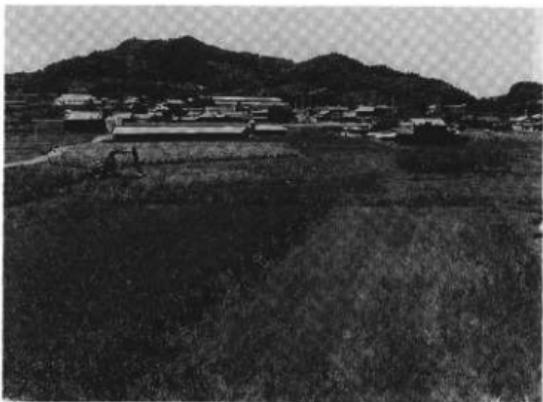


写真26 トレンチ①西方の遺構

検出状態

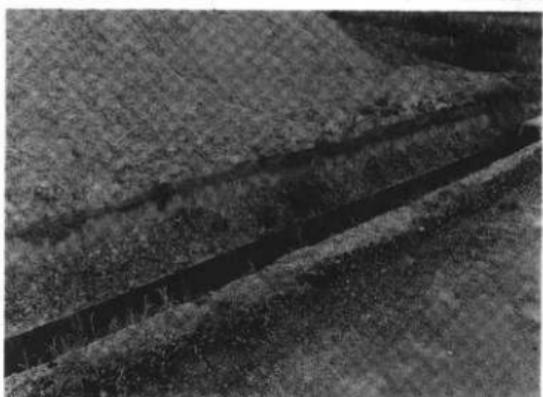


写真27 トレンチ③発掘作業風

景



写真28 トレンチ⑩土壤墓検出
状態

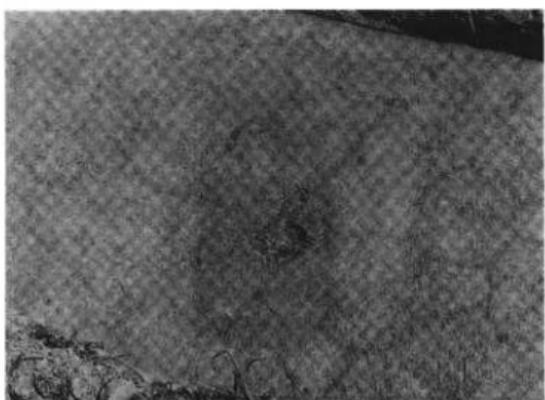


写真29 トレンチ⑩土壤墓出土
遺物

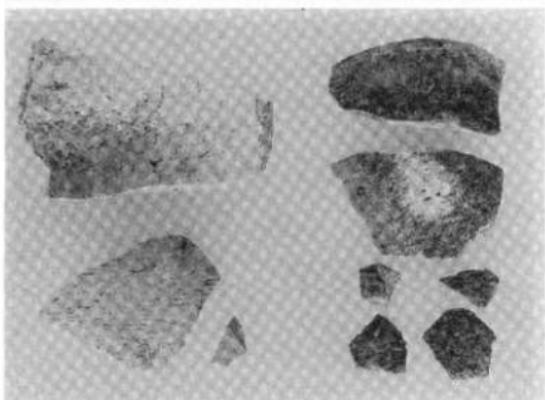
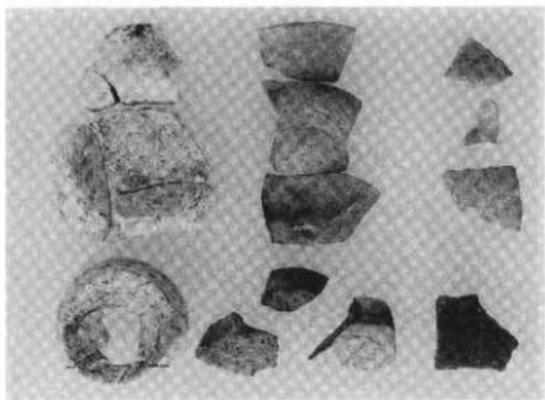


写真30 トレンチ⑪出土遺物



2 香南地区

位置と環境

高松平野の南西奥に位置する香南町の南部は、西方の綾上町、綾南町にかけて広がる千疋台地の東部を占めるが、この台地は開析が進み概ね北西方向に開く谷地形が発達し、丘陵状の台地と谷が折りなす地形は起伏に富んでいる。

周辺の遺跡分布は、台地の北東縁辺に位置する冠櫻神社の周辺は弥生時代遺物の散布地として知られ、台地上には後期古墳が単独ないし複数で分布する。さらに音谷池の築かれた谷は、綾歌郡国分寺町を経て高松市西郊の香西で瀬戸内海に流れ込む本津川の最上流にあたるが、この谷に面した東西の丘陵状台地斜面には大坪窯跡をはじめ数基の古墳時代末頃の須恵器窯が分布する。

調査結果

平成3年度の県営ほ場整備事業予定地は、東は冠櫻神社、西は音谷池の築かれた谷に挟まれた東西約500m、南北約500mの区域で、面積は約12.7ha、全域を調査対象とした。

調査対象区域内には周知の遺跡である茶園窯跡（須恵器窯）が所在し、これを対象に試掘調査を行なった。この窯跡については大坪窯跡の発掘記録の中にその所在を示すとみられる記述があるものの、その後所在位置が不明であったが、昭和58年度に瀬戸内海歴史民俗資料館が実施した分布調査で確認され、茶園窯跡の名が付された。

試掘調査では事前に須恵器片等の散布状況を確認し、1896—1番地の西向斜面部の、ほ場整備事業での造成境界直近の標高約98mの位置に幅0.5~1mのトレンチを4箇所（①～④）と、これらと下方の水路とのほぼ中程の位置に幅0.8mのトレンチを1箇所（⑤）設定した。

基本的な土層堆積はI 植物腐蝕層、II 黄褐色土、III 軟砂岩円礫混黄褐色土（地山）で、トレンチ①の北部からトレンチ②の南部にかけての範囲のIIの上半部より須恵器片が出土した。トレンチ⑤の北半部の地表下約45cmで外側が赤色、内側が青灰色を呈する一对の窯壁を検出した。窯壁の間さ約2mで、その内側は淡く赤味をおびた黄褐色土で埋まっていた。窯体内は検出面から約1mは須恵器片を含む焼土と黄褐色土との瓦層がみられ、その下位には青灰色のスサ入窯壁が堆積していたが、検出した南側窯壁の最上部が内傾していることから、窯体内のスサ入窯壁は落盤した窯体天井部とみられる。窯体はIIIの地山に掘込んで構築しており、その遺存状態は良好で、検出した窯体の幅から考えてその焼道部はトレンチ①・②近くに、また、焚口・前提部は下方の水路付近に位置すると推定される。

まとめ

今回の調査により茶園窯跡がほ場整備事業の造成区域外に位置することを確認し現状保存することができたこと、また、いまだその詳細が明らかでない音谷周辺の須恵器生産を解明するための貴重な資料を得たことは大きな成果である。



- | | |
|-----------------------|-------------------|
| 1 茶園窯跡（須恵器窯跡、古墳後期末） | 7 冠櫻八幡遺跡（弥生遺物散布地） |
| 2 大坪窯跡 | 8 由佐城跡（中世） |
| 3 大坪古墳 | 9 城所山1・2号墳（後期） |
| 4 須恵器散布地 | 10 奥谷古墳（後期） |
| 5 中世土器散布地 | 11 須恵器散布地 |
| 6 音池東岸窯跡（須恵器窯跡、古墳後期末） | 12 須恵器散布地 |

図16 調査対象地と周辺の遺跡分布図

図17 調査トレーン配置図、遺跡地図

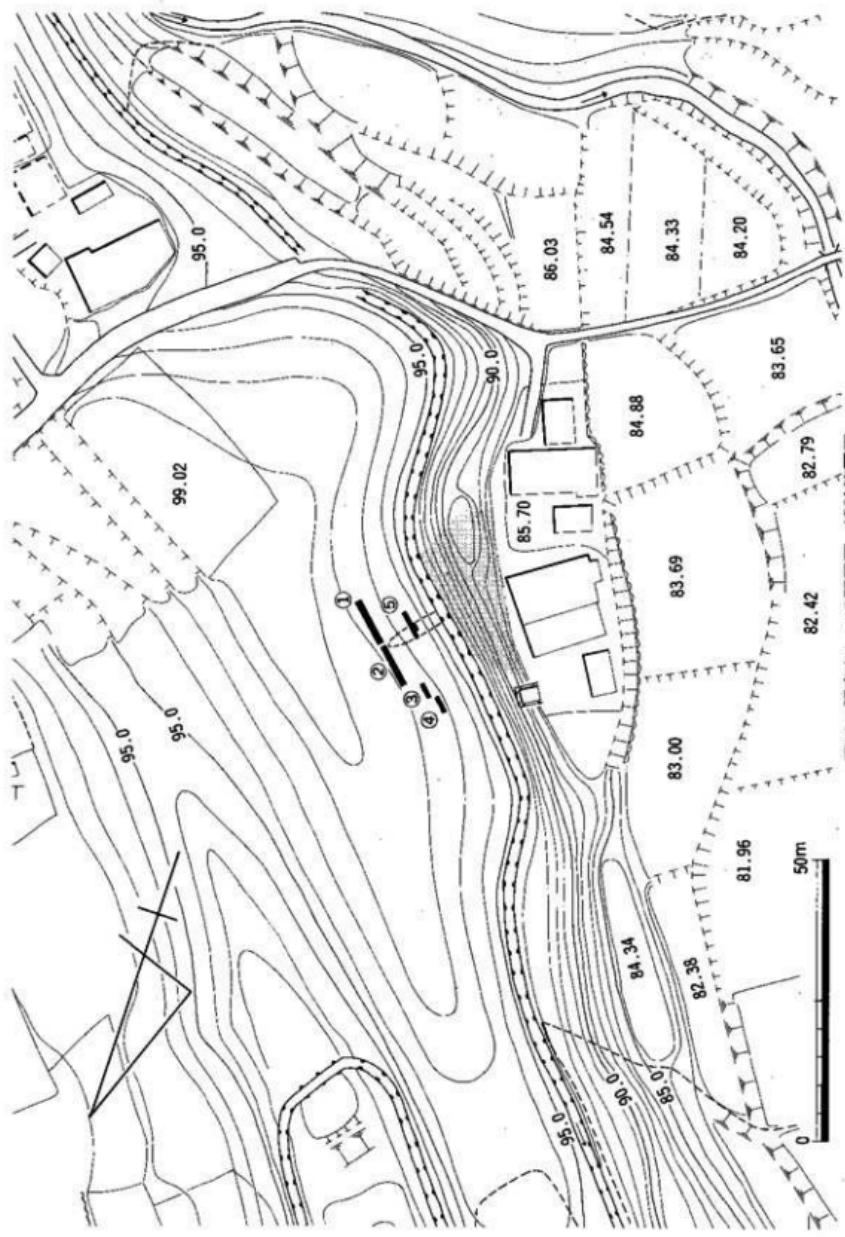


写真31 トレンチ掘削前の状況



写真32 トレンチ①・②掘削状態



写真33 水路付近の状況



写真34 トレンチ⑤掘削作業風
景



写真35 トレンチ⑤全景



写真36 トレンチ⑤検出窓体細
部



写真37 水路際出土遺物

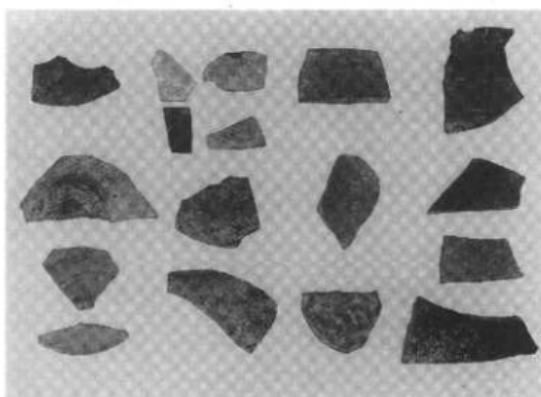


写真38 トレンチ⑤窯体内出土
遺物

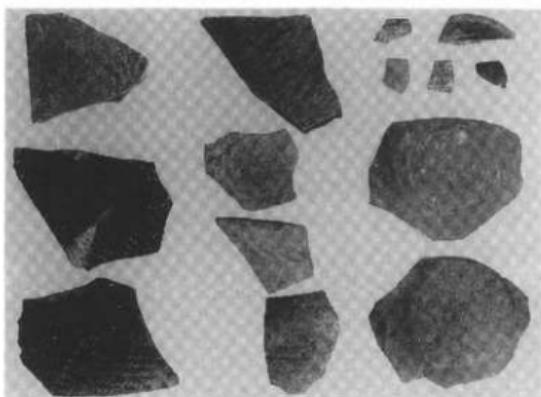
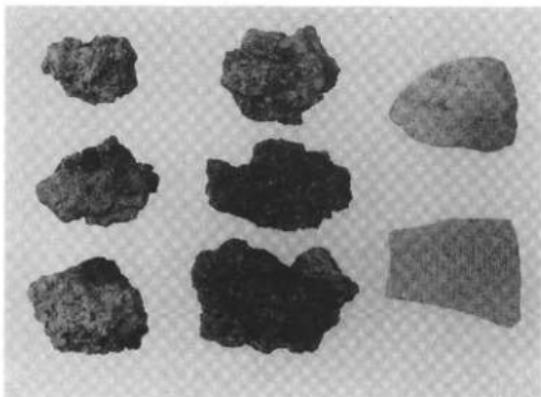


写真39 トレンチ⑤窯体内出土
遺物



3 田中・東田中地区

位置と環境

田中地区は、城池・公渕池・三ツ子石池を巡る丘陵から北へ派生する東端の尾根にあたる。この尾根は東讃大規模農道（さぬき新道）により、南北に分断され、また、度重なる開墾によりかなり、旧地形が改変されている。かつて、調査対象地内に四十塚古墳が所在したらしいが、現在では削平、開墾により跡形もなく消滅している。

東田中地区は、田中地区的南約1km、三ツ子石池の北東約300mのところにあたる。当該地は標高57～58mの独立丘陵であり、上田中城が所在しているとの伝承もある。すぐ南側には、雷八幡神社があり境内には、雷塚古墳が所在している。また、約1km東には長楽寺跡があり、付近には古瓦の散布も知られている。

調査結果およびまとめ

田中地区

事前の分布調査により、四十塚古墳は消滅していることが確認されたため、試掘調査は、より北側の尾根の頂部を対象に行なった。尾根の頂部およびその周辺に大小7箇所のトレンチを設定した。現在の地割はこの尾根を巡るように段状になっており、旧地形はかなり改変されていることが地形観察によってもわかる。

基本的な層序は、表土直下に地山である花崗土もしくは黄色粘土が現れる。3トレンチで旧地形を改変した痕跡が認められ、5トレンチで直径70cmの近現代の廃棄用の土坑を検出した。

以上より、当該地については、事前の保護措置は不要であると判断される。

東田中地区

当該地は城跡であるとの伝承があるため、郭等の施設の検出を目的として4本のトレンチを設定した。現在は荒地および柿畠であるが、元来は全体が畠地であったらしく、歴の痕跡が認められた。

トレンチを掘削した結果、いずれのトレンチにおいても表土直下約30cmのところで地山である花崗土や白色粘土が検出され、遺構・遺物とともに検出できなかった。

当該地は独立丘陵であり、城跡が所在するとの伝承もあり、墳墓・城郭関連施設等の検出が予想されたが、旧地形を削平、盛土により果樹園に改変しており、遺構・遺物とともに検出し得なかった。現地形の観察においても、郭・空堀・土星等城郭関連施設は確認できなかった。したがって、当該地については、事前の保護措置は不要であると判断される。



- | | | |
|------------------|-----------------|-----------|
| 1 四十塚古墳（円墳数基、消滅） | 6 東植田八幡神社馬場先1号墳 | 11 長来寺跡 |
| 2 上田中城跡 | 7 東植田八幡神社馬場先2号墳 | 12 塚切古墳 |
| 3 出之山南古墳（円墳） | 8 城池古墳群 | 13 丸岡古墳群 |
| 4 雷塚古墳 | 9 丸山古墳群 | 14 蛇の角古墳群 |
| 5 竹本遺跡（弥生、散布地） | 10 龍現神社古墳群 | |

図18 調査対象地と周辺の遺跡分布図

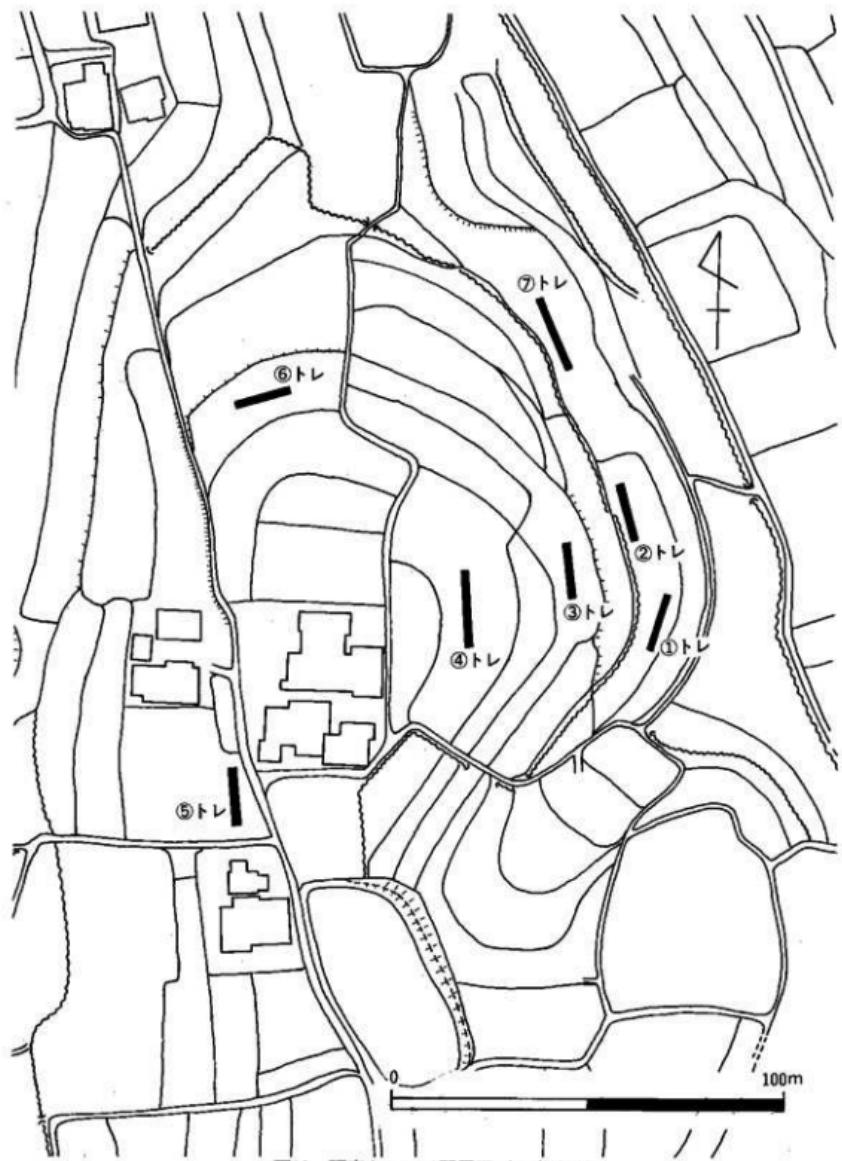


図19 調査トレンチ配置図（田中地区）

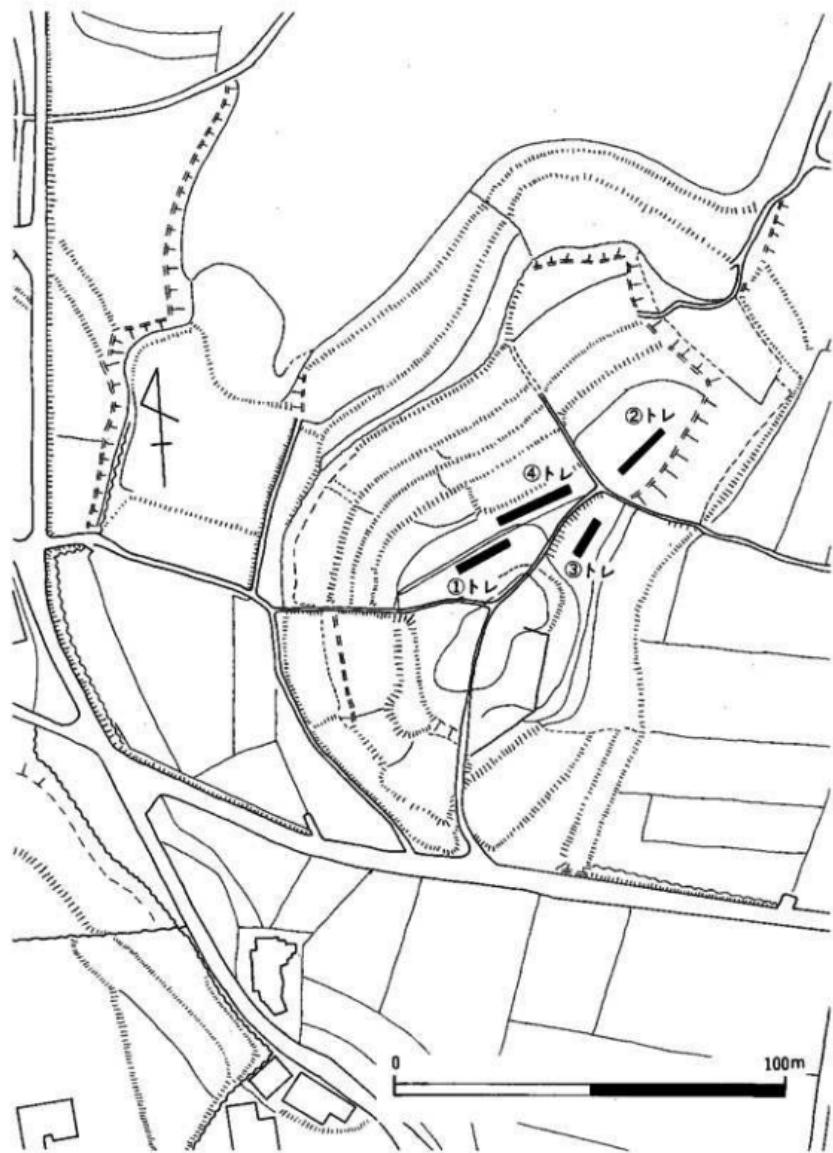


図20 調査トレンチ配置図（東田中地区）

写真40 トレンチ③掘削状況



写真41 トレンチ④土層断面

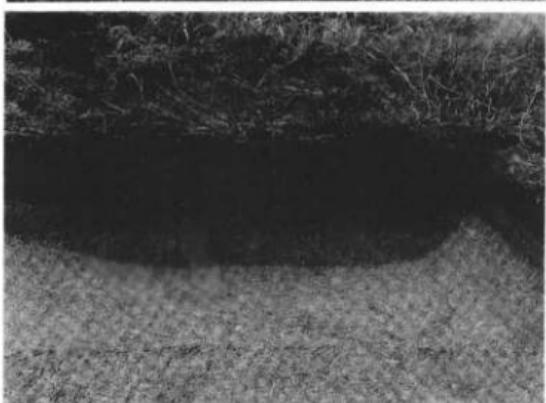


写真42 トレンチ⑤掘削状況

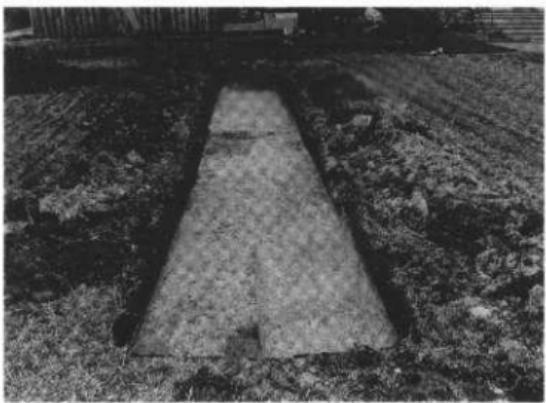


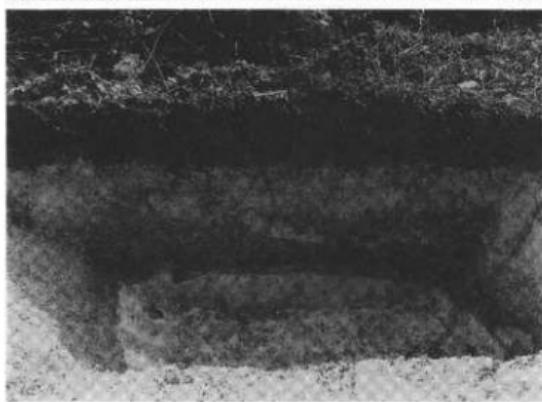
写真43 調査風景



写真44 トレンチ②掘削状況



写真45 トレンチ③土層断面



3 大川地区

位置と環境

大川町は香川県東部の内陸部に位置し、北と東は独立山塊、南は阿讃山脈の前山の山塊と洪積台地に囲まれ、平野部は南北約1km、東西約2.5kmと狭長である。この平野部の北辺を津田川が、また中央を櫛川が北流、西流する。こよ地域の遺跡分布をみると、平野部周囲の山塊・山麓部には香川県東部の古墳文化を代表する川東古墳、古枝古墳、富田茶臼山古墳等が分布し、また北方の大川・津田・寒川の三町にまたがる雨滝山山頂には、香川県下の中世山城を代表する雨滝城跡が所在する。一方、平野部には弥生～近世にわたる集落跡が数箇所分布するほか、奈良～平安時代の寺院跡である下り松廬寺が所在する。

調査結果

今年度の調査対象地は、平成4年夏着工予定の県営ほ場整備事業区域で、大川町役場から東へ約300m、県道高松長尾大内線から北へ約450mの範囲、面積約9.6ha。大川町役場と大川町総合会館を含む約400m四方の範囲は千町遺跡（古墳～中世の散布地）の名で周知の遺跡として登録されており、ほ場整備事業予定地の北西部約4分の1の範囲は千町遺跡の範囲と重なる。

分布調査はほ場整備事業予定地全域を対象に行い、このうち西部域約3分の2の範囲には3cm角程の小片となった須恵器片を主とする遺物が散布が認められた。

試掘調査はほ場整備事業予定地と千町遺跡が重なる範囲を対象にトレンチを7箇所設定して実施した。トレンチの幅1.7～2.4m、総延長約123m。実掘面積約237m²。

基本的な土層堆積はI現耕作土（厚20～25cm、白色砂粒多含）、②鉄分沈着層（厚3cm、硬）、III遺物包含層（厚20cm未満、暗黒褐色土、灰褐色土）、IV地山（黄褐色系土、粘性のある粗砂風礫混）である。III層はトレンチ①・④・⑥で検出されたが、他では耕作土・鉄分沈着層直下地山。

遺構は地山上面で検出し、その種類はピット、溝が主である。トレンチ⑤では一辺80～100cm程の隅丸方形を呈する柱穴をもつ掘立柱建物跡とみられる遺構の一部（柱穴5穴）を検出し、その両端の柱穴の心心間は約9.8mである。

遺物はいくつかのトレンチの遺物包含層や遺構から出土した。トレンチ①の遺物包含層からは土師器片、須恵器片、サスカイト片が出土した。トレンチ⑥の遺物包含層（暗黒褐色土）からは土師器片、須恵器片、磨製蛤歯石斧片が、また、これと類似の土を埋土とする溝から土師器片が出土した。トレンチ⑦の溝（幅1.7m、深20cm）からは把手付須恵器壺片、土師器片が出土した。

まとめ

調査の結果、試掘調査対象地には古墳時代後期から古代の集落跡が所在することが判明したが、さらに広範囲に広がることが予想される。ほ場整備事業予定地内の埋蔵文化財の適切な保護を図るために次年度以降継続して調査する必要がある。



- 1 富田茶臼山古墳（中期、前方後円墳）
 2 千町遺跡（散布地、古墳～中世）
 3 了智坊遺跡（包蔵地、弥生・近世）
 4 川東古墳（前期、横石塚前方後円墳）
 5 下り松庵寺（奈良～平安）
 6 柴谷古墳群（後期）
 7 時友弥生墳墓群（墳墓、弥生）
 8 富田神社古墳群（後期、円墳）
 9 古枝古墳（前期、前方後円墳）
 10 大井古墳群（中期、円墳7基）
 11 寺田大角遺跡（集落跡、弥生）
 12 边道遺跡（集落跡、古墳）
 13 森庄遺跡（集落跡、弥生～古墳）
 14 加藤遺跡（集落跡、弥生～古墳）
 15 石田高校校庭内遺跡（集落跡、弥生～古墳）
 16 宮町東谷古墳群
 17 雨浦城跡（中世山城）
 18 黒岩古墳（前期、箱式石棺）
 19 古枝遺跡（整地等）
 20 落合古墳
 21 大井遺跡（整地等）
 22 奥古墳群（円墳、前方後円墳約30基）
 23 石井廻寺（白壁、塔心礎）
 24 宮町遺跡（集落跡、弥生～古墳）

図21 調査対象地と周辺の遺跡分布図

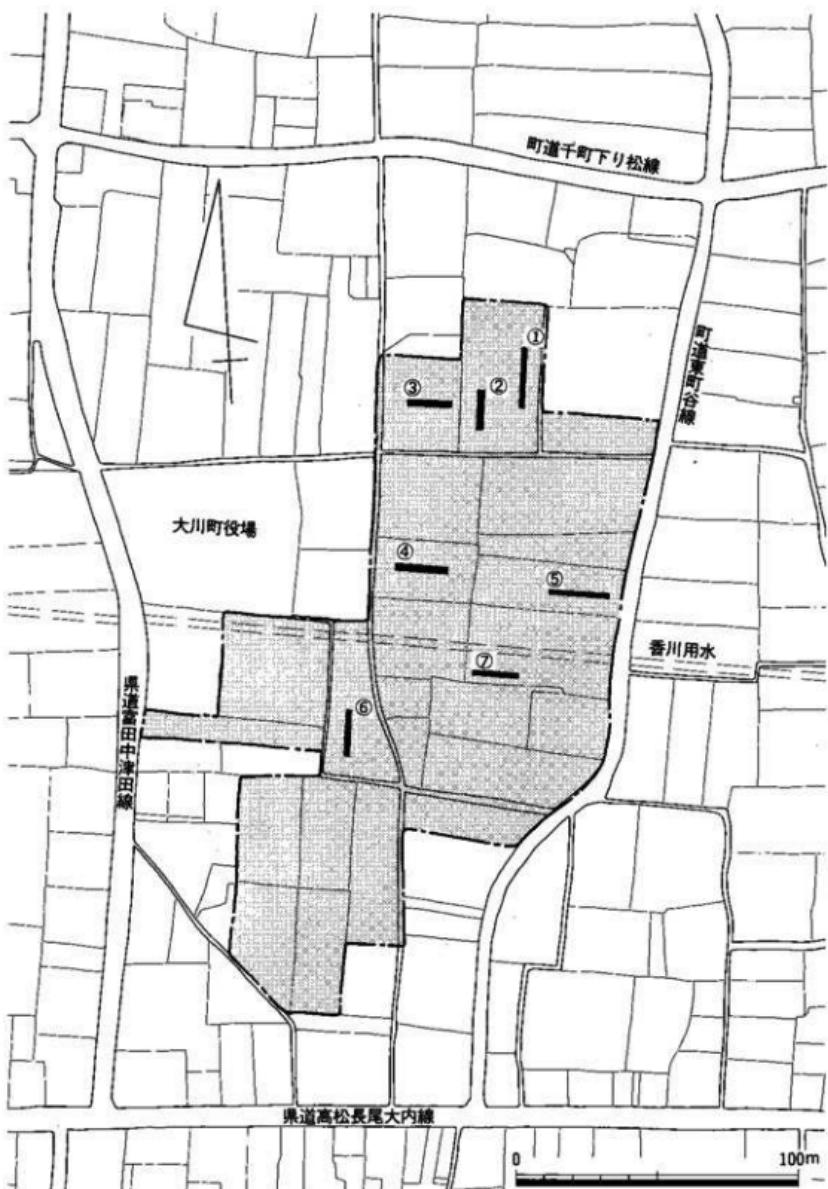


図22 調査トレンチ配置、遺跡範囲図

写真46 調査対象地遠景



写真47 トレンチ②発掘作業風景



写真48 トレンチ⑤全景

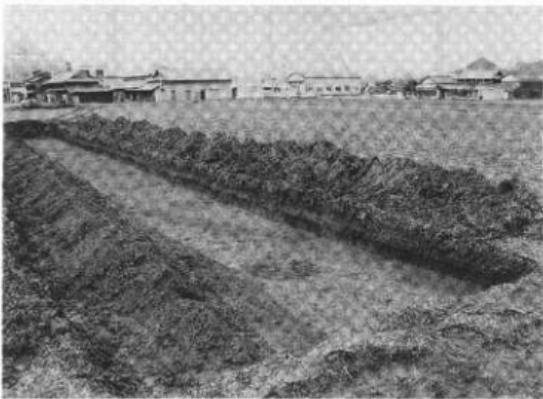


写真49 トレンチ⑤東部遺構検

出状態



写真50 トレンチ⑥北端遺構検

出状態

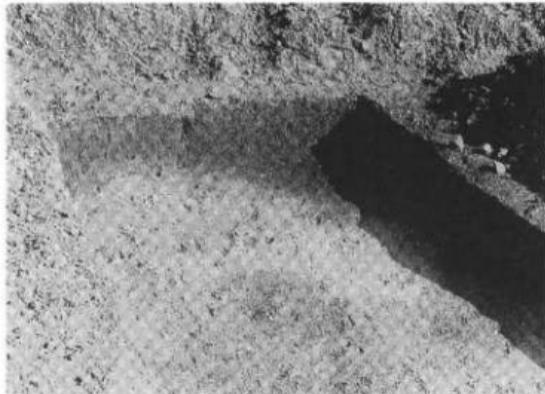


写真51 トレンチ⑦全景



写真52 トレンチ①設定は地探
集遺物

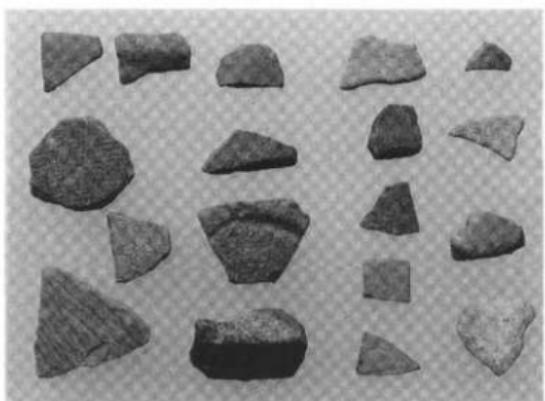


写真53 トレンチ①・⑥出土遺
物

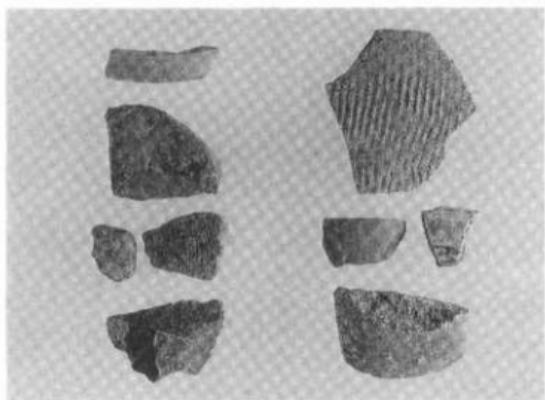
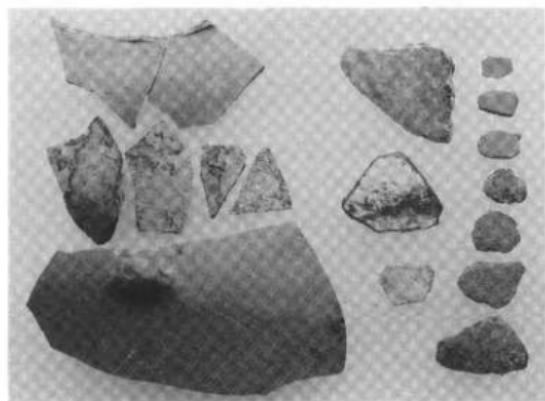


写真54 トレンチ⑦溝出土遺物



埋蔵文化財試掘調査報告 V

国道バイパス・県道建設予定地及び
県営ほ場整備事業予定地内の調査

平成4年3月31日

編集・発行 香川県教育委員会
高松市番町4-1-10
電話 0878-31-1111